

授業の玉手箱

上手は下手の手本なり、下手は上手の手本なり

中垣 芳隆

帯の部分に「教え方を知らない教員」が8割、といささか刺激的な文字に誘われて「残念な教員」と題する新書を購入した。

なかなかアグレッシブな内容であるが、その中に、「教育界では授業力に関して高校教員は小学校教員の足下にも及ばないと言われる。・・・先輩教員に当たり前のように授業を見てもらえる小学校教員と閉鎖空間で王様として振る舞える高校教員では、技量の伸びが異なっても何ら不思議はない。なぜ、高校教員は研究授業、公開授業、授業参観などに対して前向きでないのか。・・・」

はて、確か日本の教師は「授業研究」と「校内研修」という優れた専門家文化を形成していると昔から言われ、筆者も若い頃、同僚教員と相互に授業を見学し忌憚のない意見を交換しいろいろと教えられた記憶がある。しかし成程、TIMSS（国際教育到達度評価学会）の調査結果によれば、「授業研究」と「校内研修」については、小学校では日本は調査対象校の中で中位、中学校では下位、高校では最下位に位置しているらしい。

かつて勤務していた学校で先生方に、「教師としての成長において何が最も有効でしたか」と幾度か聞いたことがあるが、常に「自分の授業の反省」が第一位、「同じ学年や教科における授業参観」が第二位、第三位は「校内研修」と続き、残念ながら「教育委員会主催の研修」は常にそれらの後塵を拝していた。換言すれば教師の成長の契機は、当該の教師自身の授業を中心にして同心円状に拡大していることになる。

表題の「上手は下手の手本なり、下手は上手の手本なり」は世阿弥の言葉であるが、上手はともすれば、自分よりも仕事の能力の低い人や未熟な者からは何も学ぶことがないという「おごり」を抱き、そのことが油断を生みがちであることを心に留めよという戒めと同時に、相手が年上であれ年下であれ、上手であろうが下手であろうが、自分より優れている魅力や、見習うべき点、その人から学ぶべき点は必ず存在するはずであると意味合いであろう。

新しい学習指導要領の目玉はAL（アクティブラーニング）。今回の改訂の最大の眼目は「何を知っているか」にとどまらず、「何ができるようになるのか」を重視するという、知識の量から「資質・能力」（コンピテンシー）へのドラスティックなシフトである。ALを形式的なものにとどまらず、実質化し効果的な授業を展開するためにも、職場の同僚性を醸成し、相互の授業参観を活発に行うことが近道と思われる。

書籍紹介

『英語で大学が亡びるとき—「英語力＝グローバル人材」というイデオロギー』

寺島隆吉 (2015)、明石書店 ¥3,024



グローバル化の進展と共に日本に「英語の世紀」の荒波が押し寄せる中、かなり批判的なタイトルの書籍である。著者は元岐阜大学の教授で、先年、『英語教育が亡びるとき』で英語教育に警鐘を鳴らした人である。本書は、京都大学などでの講演資料や京都大学新聞のインタビュー記事などを再構成してまとめている。

「英語力＝研究力、英語力＝経済力、英語力＝国際力という神話」がまかり通っている。「外国からの留学生は英語による授業を望んでいない、日本の文化・考え方を学びたい」「アメリカを蝕む大学ランキング競争——なぜアメリカの大学教育は劣化しつつあるのか」など刺激的な論考である。鈴木孝夫氏の考えに同調されている寺島氏の主張は、ややもすると現状の英語教育改革の波に流されそうとする際に、自身が考える英語教育の展望と見通しを定かにし、進むべき方向の意味と価値を再確認するための灯台の光となるものである。様々な考えをしっかりと認識し、生徒や学生への英語教育に望みたい。

(中井 弘一)

大阪女学院大学「教員免許状更新講習3」 平成 27 年度講習

平成 28 年3月 4 日(土) 9:10 ~ 16:40

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

「アクティブ・ラーニングとは何か、英語の授業での方略を考える

・英語の授業とアクティブ・ラーニング：その目的を考える

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・英語の授業でのアクティブ・ラーニングの方略と導入・活用の工夫

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

講座のねらい

アクティブ・ラーニングとは、文部科学省が2012年に示した説明によると、「教員による一方的な講義形式の教育とは違って、生徒たちの能動的な参加を採り入れた指導・学習方法の総称」で、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習などが含まれ、教室内での集団議論、討論会、グループ・ワークなども有効な方法だとしている。National Training Laboratories の the “Learning Pyramid” によると、定着率の高い学習方法は“Teaching others”、“Practice”、“Group Discussion”の順で、最も定着率の低い学習方法はただ黙って聞く“Lecture”である。生徒が主体に参加する能動学習といっても形態面に囚われていては、効果はない。本講習では、アクティブ・ラーニングを実質化するための考え方やその工夫を取り上げる。

第一部では、言語活動の充実という観点から、英語の授業の中でアクティブ・ラーニングを捉え直す。そこで、アクティブ・ラーニングは記録・説明・批評・論述・討論などの言語活動を充実させることで思考力や判断力、表現力を育むことを目的としているということ明らかにする。これまでの英語授業における取組みと何がどのように異なるのかを、実践例を挙げながら議論する。

第二部では、アクティブ・ラーニングはなぜ効果があると考えられているのか、また、個々の生徒の学習意欲や学習能力を高めるためにはどのようにアクティブ・ラーニングという学習方法を英語の授業で活用すればよいのか、その方略を中学・高校の英語の教科書などを使った実習を通して参加者と考える。

定員・対象

中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計 30 名

(定員を超える場合は申し込み先着順にて締め切り)

受講方法

○ 受講申し込み受付

平成 28 年1月 18 日(月)より平成 28 年2月 19 日(金)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当(ttc@wilmina.ac.jp)へお申し込みください。

○ 受講料 5,000 円 (所定の口座へ振り込み)



編集後記

シリアからの難民対策がヨーロッパでは膠着状態を迎えている最中、パリで(自爆)テロが相次いだ。グローバル化時代は国家間だけでなく、集団や個人がその脅威にさらされ、報復による連鎖がまた次の脅威を生み出し、無限地獄の様相を見せている。マララさんは、“With guns, you can kill terrorists. With education you can kill terrorism.”と訴えている。教育こそ明日の未来を照らす光であるべきだ。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher-Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp